

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100068		
法人名	社会福祉法人 聖徳福祉会		
事業所名	グループホーム ひさご苑 2F		
所在地	島根県松江市浜佐田125		
自己評価作成日	平成24年12月26日	評価結果市町村受理日	平成25年2月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16
訪問調査日	平成25年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を豊かな自然に囲まれ四季の移り変わりも感じられ、隣接する保育園からは元気に遊ぶ子供達の姿を目にする事が出来ます。誕生会、夏祭り、敬老会、クリスマス会、など園児との交流も積極的に行なっています。又、当苑でも敬老会、クリスマス会等の恒例行事や季節の外出、入居者様の誕生日には、家族様を招いての食事会を行っています。特に、食事のメニューは入居者様やその家族様にも大変好評です。入居者様との触れ合いを大切にして、たくさんの笑顔がみられる様に職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1,2階のどちらの窓からもゴルフ場が一面に眺められ、大きな池もあり、自然の中で常に季節感を味わうことができるいい環境にある。同敷地内の保育所、乳児院の子供たちとの交流は盛んに行われており、双方に良い刺激になっているのだが、比較的新しい住宅街で地域住民は若い働き盛りの方が大半の為、地域との交流を持つことがかなり難しい状況にある。子供たちとの合同の行事を増やすことや、地域の福祉関係者の方々への働きかけを地道に続けることで、少しずつ関係が築けることを期待したい。新しい経験の少ない職員も多いが、それぞれの得意分野を生かして仕事に取り組んでおり、職員同志がお互いを認め合ういい関係ができているように見受けられた。利用者に於いても、趣味活動が生活意欲に繋がるように支えている点、専門医の助言を計画に反映させて取り組んでいる点にも、好感が感じられた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口や各ユニットの詰め所に、理念を掲示しているが、職員によっては理念についての理解が把握できていない。会議等で、理念についての話し合いの機会を設けている。	以前からの理念を継続しており、新しい職員も多く、理解し共有するまでには至っていない。職員間でも話し合いの機会を持ち検討されているが、具体的なものとしては作成されていない。	個々の思いがチームとして生かせるように、理念について話し合い、共有できるような取り組みに期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長や民生委員に協力していただき、地域のイベント等紹介していただいて参加に努めている。苑の方で定期的に会報を作成して公民館、駐在所、近隣住民宅に配布している。法人の行事に地域の方を招いたり、ボラのお願ひもしている。	苑の会報を作成し近所に配布したり、公民館活動への参加も進めたり、駐在所とも関わりを持ったりと、地域との関係を築けるよう働きかけているが、まだ不十分と感じている。	今までの活動に加え、ボランティアや学生、老人クラブ等のより幅広い年代への働きかけで地域づくりに取り組んでいただきたい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として実習生や職場体験の受け入れは行っているが、地域の人々に向けて認知症ケアの啓発はしていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を検討しサービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員の都合を聞き、家族、行政関係者や、保育所の職員等の参加のもと開催されている。現状の説明や質問への応答等が主になっている。	会議の内容を検討することで、より多くの方と繋がりがもてるような取り組みに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員の実地指導等を受け、改善するように努めている。	運営推進会議の席や、その他の場合でも、判断に迷うことなどは電話等で指示をもらうようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている。万が一拘束が必要な場合は、本人様、家族様、主治医、相談し拘束についての書類を作成して同意を得ている。(現在対象者なし)ホール入口の施錠に関しては、職員がホールを離れる際に一時的に施錠している。	やむおえない場合を除いては、身体拘束をしないケアを実践している。ユニット内でも勉強会を行い、職員間でも意識統一に努めている。外へ出ていく利用者には制限するのではなく、センサーを利用し対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に出来るだけ参加している。参加職員は、報告書を作成して職員会議等で説明して、知識の共有に努めている。事業所内でも虐待が見過ごされない様に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要なケースが現在ない為、他の職員は理解していない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、入退所居や重度化、改定を含め十分な説明を行い、理解、納得をさせていただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、毎月担当職員がお手紙を書いて出している。又、面会時に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	毎月の様子を担当より文書で知らせており、その際意見を求めている。また面会時にもこちらからの声かけを心掛けている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長(代表者)は、他事業所と兼務している為、当苑にはほとんど来ない。職員の要望等ある場合は、施設長が理事長の方に伝えている。	朝夕の申し送りの時間や会議の際に意見を出し合うようにしたり、連絡ノートへ記入し伝えるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が職員の努力や実績、勤務状態を見て、理事長に報告している。それにより、理事長が職員の評価をしている。又、勤務態度に問題がある職員には、指導して改善をもとめている。(理事長にも報告している。)		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、なるべく職員が参加するようにしている。研修報告書を職員に観覧出来るようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会には、参加している。研修等で知り合った他施設職員と情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に会って心身の状態や本人の思いに耳を傾ける様にして安心感を得られる様にしている。又、必ず施設見学をしていただき施設の雰囲気を感じていただいている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況、要望などをゆっくり聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に職員が利用者様、家族様に面接し本人や家族の思い、状況等を確認し必要としている支援を見極めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識をもたず、お互いが協働しながら和やかな生活ができる様に、場面作りや声かけをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の気づきを伝え、家族様の思いにも耳を傾けている。本人様を支えていけるように協力関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように面会の依頼をしている。又、馴染みのある場所に、ドライブして懐かしい話をさせていただき、話題にしている。(家族様に都合を伺い一緒に行けるよう声かけしている。)	墓参りの希望や帰宅願望のある人など、担当から家族に電話を入れ、外出の支援に繋げている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係、心身の状態等を把握し職員が情報を共有するようにして、利用者様同士の関係が、上手くいくように職員がいろいろな場面、活動を通して調整役となって支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、情報提供を行っている。ご家族にも電話で様子を聞くようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、ご家族様から暮らしの希望、意向を確認している。日々の関わりの中でも、把握に努めている。	本人や家族から、入所時に生活歴等を重点的に聞くようにして、アセスメントを作成している。趣味や仕事歴を生かし計画につなげるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、フェースシートを記入してもらっている。本人様や家族様、親類の方にも暮らしぶりを聞いている。情報提供も依頼して情報収集している。入所されてからも、アセスメントしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人一人の生活のリズム、心身の状態、有する力など行動等から把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様に、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させる様にしている。	担当を中心に職員で意見を出し合い、計画作成にあたっている。精神科の医師に相談し、運動メニューを加えて実施している利用者もあり、多くの意見を基に計画するようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の状態変化は、記録して職員間で情報の共有を図り、介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況に応じて通院等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の希望に応じて、移動図書館の利用や訪問理美容サービス、近所での買い物等を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様が希望するかかりつけ医になっている。通院は、基本的に家族様であるが、急変時や状況により職員が付き添っている。	かかりつけ医への受診は家族対応になっているが、緊急時等には職員で対応している。近所の精神科の医師の往診が月1回や訪問看護の利用も月に1回あり、夜間にも指示がもらえるよう契約されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は在籍していない。月一回の訪問看護契約を結び、本人様の体調の変化に応じて状態を報告、相談し適切な医療につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に対して本人様に関する情報を提供している。職員が見舞うようにしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方に事業所でできる事を説明しており、本人様の状態を見ながら家族様や主治医と相談して、対応している。	医療行為が必要になってきたり、入院が長期になると利用が困難になること等、入所時に説明して利用に繋げている。入所と同時に特老の申し込みもしてもらっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを整備してある。緊急時は、主治医や医療機関への連絡、報告をして指示を仰ぎ連絡網を通して職員間でも連絡を取り迅速に対応している。応急手当能力には、不安が残る。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消化器の使い方などの訓練を定期的に行っている。消防担当(苑職員)が研修を受けたり、【防火確認チェック表】を作成して職員が毎日確認している。	年に2回は消防署の指導の下、担当の職員が消防署に出かけ研修を受けたり、中心となって計画を作成して訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の生活歴を把握し、その人の人格を損なわない様、その人の気持ちを尊重し介助する事を心がけている。	行事の際に撮影した写真を、日常眺め感じられるように掲示しているが、家族の了解を得ており、その他の情報についても、外部に漏れることがないように、職員、関係業者にも徹底している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の生活歴を把握し、利用者様の希望、関心、嗜好を見極め、それをレクリエーションや日常生活に活かすように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しているつもりはないが、職員がレクの声かけないと各自居室にこもりがちになる。外出レクは、事前に日にち時間を伝えて準備お願いしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を所持されて、自分で化粧される方もおられる。希望により近くの、ファッションセンターに買い物外出(付き添い)される方もおられる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁や皮むき器具が使える方には、食材の皮を剥いてもらっている。お皿洗いやテーブル拭き等お願いしている。食事中は同席に座り、話をしながら楽しく食事ができるようにしている。	できるだけレトルト物を使用しないように、調理担当者が工夫しながら1階で作っている。お正月のおせち料理もやわらかめに作るなど、目で見て楽しめるように食事には力を入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分・食事摂取量を記録している。入浴後は、必ず水分補給をしていただいている。食事は、個々の嗜好や状態を考慮し食べやすいように形態も変えている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて、毎食後洗面所で歯磨きやうがいを、していただいている。自分で出来ない方には、職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら時間を見計らって誘導している。トイレでの排泄を尊重し、紙パンツ・パット類も本人様あっているか職員間で情報交換している。	個人の排泄のパターンを把握し、時間を見ながら傍に行きさりげなく誘導するようにしている。リハビリパンツの利用者が多いが、パットをうまく組み合わせ不快に感じないようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表、水分摂取表を記録し十分な水分補給を提供している。又、牛乳・ヨーグルト等も工夫し、毎日の感触に提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人入浴日は、定めている。利用者様の気分や体調に合わせて入っていただいている。	入浴セットは個人持ちで石鹸、シャンプーなど好みの物を使い分けている。週2回は入れるように調整し、時間帯等については希望を聞くようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スペースを尊重しながら、体調、希望とくに考慮し、なるべく日中の活動を高めるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬のコピー・効能・副作用の説明等、ケースファイルに保管し、全職員にわかるようにしている。処方用量変更時は、ケース記録や連絡ノートに記録している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の皮むき、洗濯干しやたたみ、掃除、皿洗い等得意分野での力を発揮してもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、ドライブの計画担当としてレク係りを決めている。担当が、一緒に買い物に行ったり、頼まれ物の買い出しや注文している。利用者様の調子や、職員の数、天候を考慮し、近くのスーパーや喫茶、外部イベントに行けるように努めている。	遠出す場合にはあらかじめ計画を立てて実行しているが、日常は隣の園児の様子を近くで見たり、裏のテラスでの日光浴や散歩など、天気の良い日を選んでできるだけ行っている。近くのお店にもワゴン車で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時や本人様より訴えがある場合家族様を交えて話し合いしてる。所持される場合、プライバシーを侵害するという理由から所持金の管理は、行っていないが、その際家族様から了承を得ている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば、取り次ぐようにしている。(希望により、便箋の準備もしてある。)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が季節に合わせて、ホールの飾りつけをしたりしている。廊下壁にも写真を貼り(イベント等の)、入居者様同士又、職員を交えて観覧できるようにしている。	窓からゴルフ場が良く見え、いつも季節感を感じながら景色を楽しめる。手芸の上手な利用者が干支や花などを刺し子で作っており、壁に飾って見ることを励みにしている。食堂がスタッフルームやキッチンで囲まれており、見守られているような安心感がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が居室の行き来が出来るように声かけしている。又、利用者様同士の人間関係に気を使い、席を決めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。本人様の思い出のある物等自由に持ち込んでいただいている。室内に、外出やイベントでの写真を貼り面会時の話題になるようにもしている。	思い出のある物についてはできるだけ持ってきてもらうようお願いしている。使い慣れた家具や家族の写真、お土産物や雑貨を壁などに飾り、できるだけ明るい雰囲気になるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状況に合わせ、物の配置に配慮したり、混乱されないよう必要な目印をつけたりして環境面で工夫している。		